

ケチは世界を救う

愛知県名古屋市立左京山中学校

一年 森 菜摘

快適な住まいを読んで、私が当たり前に生活をしている家について、なぜこの家を購入したのか、気になって聞いてみた。

まず家探して第一にこだわったのは、地盤だったそう。私の住んでいる地域では過去に大きな水害が発生、それを経験した両親は、液状化なども調べて住む場所を決めた。と話していた。住む前から災害に備えているとは思ってなかった。私は少し驚いた。住み始め、引っ越しの際には、本棚やテレビなど地震で転倒する恐れのあるものについては、全て転倒防止対策がとられていたことも、この時初めて知った。他にも、太陽光発電や窓ガラスを二重にすることで断熱対策がされているなど、環境に配慮した工夫がたくさんあることを知った。

住環境でこだわった点は、リビング階段らしい。これは家族が必ず顔を合わせられるように。との思いが込められていた。家族だらんの時間が大好きな両親らしい答えだ。子ども部屋を決める時も、天窓がある部屋を割り当てて、日中は照明を使用しなくてもいいようにとの考えがあった。このケチくさい発言に私はハツとした。母の口癖「もったいない。」この言葉は全て環境保全につながっていく事に気づいてしまったからだ。物を買う時によく言われる「欲しいか、欲しくないかではなく、必要か、必要でないかを考えなさい。」私にとって優しくないこの言葉も、環境にとってはとても優しい言葉になることを。

「快適な住まい」について考えるきっかけがなかったら、気付かなかったかもしれない様々な人とのつながりや、生活の知恵。せつかくそれに気づけたのだから、気付いて終わるのではなく、これからはその知恵を役立てた生活を送りたいと思う。

いつの日か、母のような、環境に優しいケチに自然となれる日まで。